

## 1. 活動の概要

5月29日(木)、飯南町立頓原小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。体験活動に「はにわ作り」を希望されていたので、はじめに「はにわ」について県埋蔵文化財調査センターの職員から、話を聞きました。もっとも大きい「はにわ」は高さ245cmもあることや、「はにわ」にはさまざまな形のものがあることを知ってびっくりしたり、感心したりしていました。

次に、飯南町などから出土した土器、石器などについて実物を見ながら説明を受けました。志津見ダムを造る前に発掘した遺跡から発見された縄文土器や弥生土器にはいろいろな文様があるけれど、時代によって違いがあることを聞きました。

そして、図工室に移動して、いよいよ「はにわ作り」に取り掛かりました。どういう形のものを作るかあらかじめ決めていましたが、実際に作り始めると粘土が薄いところが崩れたり、手や足を胴体に繋ぐところが剥がれたりして難しかったです。胴体は粘土を厚めにし、手足をつけるところは、予め胴体に小穴を開けてそこに差し込むようにすれば取れにくいことを教わり、それからうまく作ることができました。

## 2. 活動の様子

### 1)「はにわ」について学ぶ・飯南町内外の遺跡について知る



「日本一大きい埴輪はどれぐらいの大きさでしょうか？」



「弥生土器の細かな文様は貝殻でつけています」

### 2)古代体験活動～はにわ作り～



「最初に、はにわの胴体を作ります」



「顔や髪などの細かな部分にも挑戦！」



いよいよ、完成間近！

### 3. 子ども塾を終えて

#### 1)児童の皆さんから…

- ・よく知っている飯南町にはいっぱい遺跡があることや、自分の家のそばにも遺跡があることがわかってびっくりした。
- ・「はにわ」作りを始めた「野見宿禰」が飯南町と関わりがあるかもしれないことがわかって、びっくりした。
- ・縄文土器や弥生土器を近くで見て、形や模様のつけ方の違いがわかった。
- ・はにわ作りは、簡単かと思ったけど意外と難しくてうまくいかないこともありました。でも頑張って完成することができました。

#### 2)担任の先生から…

- 地元で出土した土器を見たり、お話を聞いたりしたことで教科書での学習ではわからない質感なども感じることができました。
- 実物資料を手に触れることができるとよかった。(破損の恐れがあったことと、時間が短かったので触る時間を十分もうけられなかった)
- 教材や資料・材料まで全て用意して頂いて、とてもありがたかったです。

#### 3)埋文センターから

埴輪について、事前に学習をしておられ、興味をもって説明を聞いてもらいました。埴輪作りの始祖伝承の話がある「野見宿禰」は伝説に包まれた人物ですが、飯南町と関わりがある可能性を聞いて、埴輪に関する関心がより高まったようです。

志津見ダム関連の発掘調査によって、学校の周辺に多くの遺跡があることを知った児童のみなさんは驚きの声を上げていました。また実際の出土品を間近に見学して驚いたという感想が多く寄せられました。

埴輪作りでは、予想に反して粘土を思い通りの形に造形することが難しく、苦戦する児童も多かったのですが、頑張っで時間内に完成することができたようです。一見、素朴に見える埴輪にも、古代人の手先の器用さや、熟練の技術が使われていることがより一層感じることができました。